

静岡 沼津の男性、海上安全指導員に

清水海上保安部は1日、マリンレジャーの安全を推進する民間ボランティア「海上安全指導員」の指定証交付式を行った。新たに指定を受けた河田憲一郎さん(46)＝沼津市、写真手前右＝が同保安部を訪れ、山田宏一部長から指定証



や腕章を受け取った。

海上安全指導員はマリンレジャーのリーダーとして、ライフジャケット着用

の呼び掛けや海上パトロールなど海の安全に関する啓発活動を行う。これまでトリアスロン大会での海上警備員などを務めてきた河田さんは「培ってきた知識や経験を生かせれば」と抱負を述べた。

マリネレジャーの安全を推進する民間ボランティアとして、昨年12月に清水海上保安部から指定された。海上パトロールなど、海の安全に関する啓発活動を行う。本業は自動車整備「うしづせ自動車」社長。46歳。

―これまでの経歴は。

「過去約15年間、救助用ボートに乗ってトライアスロン大会の海上監視員を務めた。海で意識を失った人がいたら引き上げて処置を施した。陸上でも心肺が停止している人に対し、心臓マッサージを行った」

―マリネレジャーではどんな事故があるか。

清水海上保安部から「海上安全指導員」の指定を受けた

かわた けんいちろう さん (沼津市)
河田 憲一郎



この人

「約20年前、下田市の海岸で離岸流に流された家族連れに遭遇し、沖で救助した。人はパニックに陥ると沈んでしまう。離岸流が原因で亡くなる方は後を絶たないが、事前に安全指導を受け対処法を知っていれば助かる可能性が高まる」
―留意すべきことは。

「二次災害の防止が大切。溺れている人を救助しようとしたら、その人も溺れて命を落とすケースが多い。要救助者を発見したら、浮輪などの浮具を持ち、複数人で救助に向かうことが大事になる」
―意気込みを。

「海でライフジャケットを着ないのは、シートベルトをせずに車に乗ることと同じ。水の事故で亡くなる人が減るよう、これまで培った知識や経験を生かして積極的に指導したい」

◇
週に1回、30分間泳ぎ続ける遠泳に取り組む。